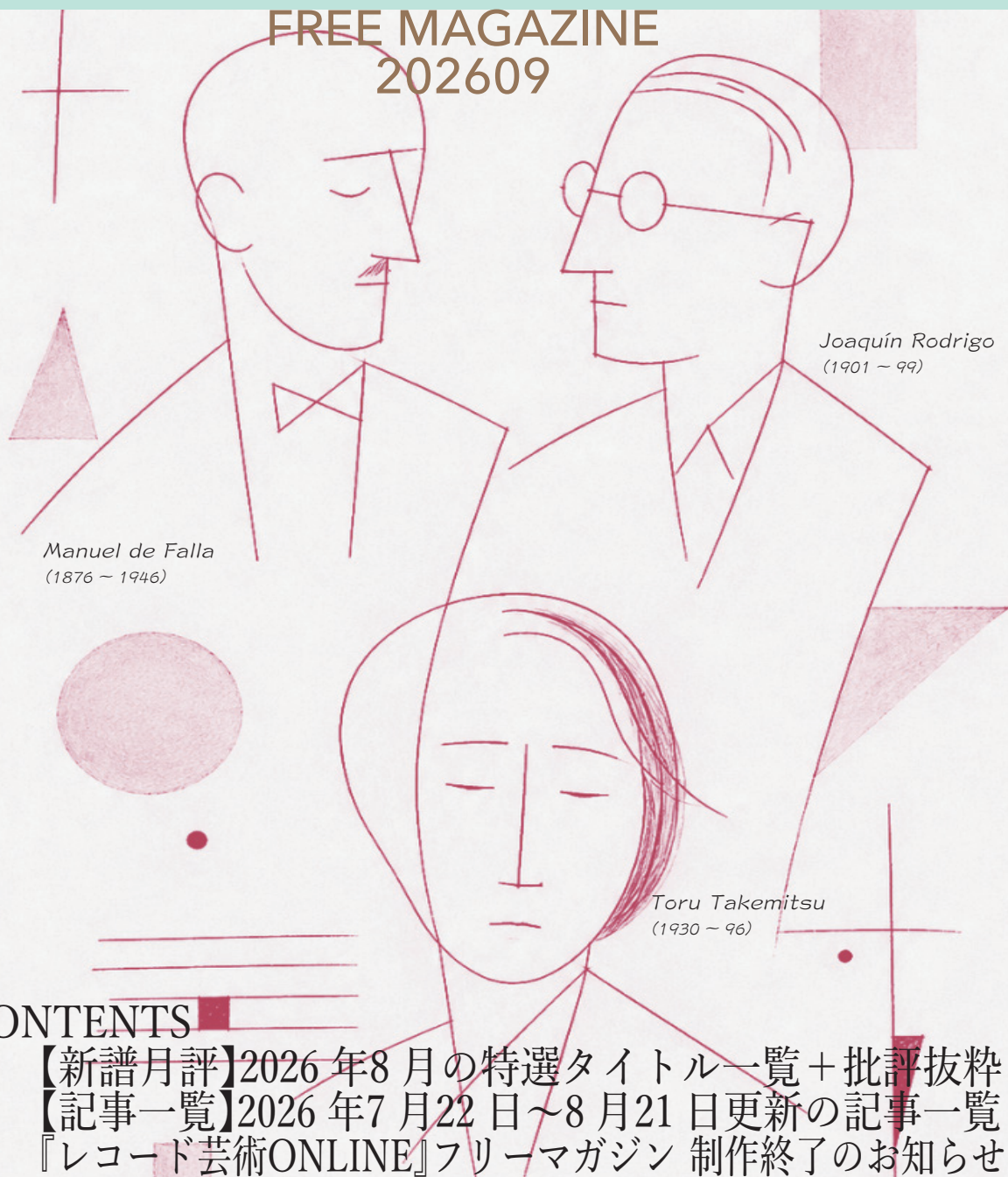


TAKE
FREE

クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE

FREE MAGAZINE
202609



CONTENTS

- 02 【新譜月評】2026年8月の特選タイトル一覧＋批評抜粋
- 07 【記事一覧】2026年7月22日～8月21日更新の記事一覧
- 08 『レコード芸術ONLINE』フリーマガジン 制作終了のお知らせ

★レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作：「レコード芸術 ONLINE」編集部

特別企画「武満徹の音楽世界」&「ファリャとロドリゴ」展開中♪

レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第 13 号です。 掲載記事 3,300 本＊突破！ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部のフリーマガジンです。今号には、2026 年 8 月の〔新譜月評〕特選タイトル一覧＋批評抜粋、直近 1 ヶ月の記事一覧を収録しました。

また、本誌 8 ページ目にも掲載いたしました、本フリーマガジンは今号をもちまして制作を終了させていただきますこととなりました。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本サイトは月額 1,100 円（税込）。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

＊ 2024 年 10 月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026 年 8 月 22 日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初 2 ヶ月間が 100% OFF となる「年間契約プラン」もお選びいただけます。
詳細は右側の QR コードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>

←の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026 年 8 月の特選タイトル一覧＋批評抜粋

特選＝ダブル評を行ったもので、2 名とも「推薦」評価／筆者は敬称略、五十音順／特記のないものは通常 CD です



それぞれの批評全文＋他の音源（毎月 100 点近くが登場！）の批評は、
有料会員限定コンテンツとして

「レコード芸術 ONLINE」上で読みいただけます♪

https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202608/

●オーケストラ曲



R. シュトラウス：アルプス交響曲

アンドレア・バッティストーニ指揮 東京 po [デンオン (D) COCQ85655]

♪東京フィルハーモニー交響楽団との関係において、新たな時代へと歩みを進めているアンドレア・バッティストーニ [...] ドイツもののレパートリーの開拓に余念がない [...] 《アルプス交響曲》への挑戦も、そのような意図に w よる選曲ではあるだろう……（広瀬）

♪鮮烈でカラフルで、スケールの大きな《アルプス交響曲》だ。バッティストーニの豪快かつ緻密な指揮のもと、東京フィルは、覇気にあふれた見事な演奏を繰り広げている。そして、録音のおかげもあるだろうが、細部まで明晰だ……（増田）



ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲

ヘルベルト・ブロムシュテット指揮バイエルン放送 so [BR Klassik (D) NYCX10597]

♪本盤の価値はその演奏だけでなく、リハーサルの一部も収められている点にある。リハーサルは、指揮者やオーケストラにとって言わば秘儀のようなもの。そうした場の約 50 分間が本盤に収録されている。演奏が出来上がっていく過程を、存分に楽しむことができる……（石原勇）

♪ブロムシュテットは練習の際、フレージングやアクセントを口三昧線で歌って示す [...] このやり方は、わかりやすい一方で、リスクも大きい。歌い方が中途半端だと伝わらないのと、多用しすぎると滑稽になり、団員の失笑を買うからである。ところが……（城所）

	ショスタコーヴィチ：喜歌劇《モスクワ、チェリョームシキ》組曲、交響曲第1番 サントウ＝マティアス・ロウヴァリ指揮フィルハーモニア○ [シグナム・クラシックス (D) JSIGCD990] ♪ 交響曲第1番については「…」前のめりで煽り立てるようなビートとともに強い推進力を前面に出す演奏がかつては主流であった。しかし近年は、そうした一面的なイメージを脱却して、よりバランスのとれた演奏が試みられているように思う……（相場） ♪ ロウヴァリとフィルハーモニア管弦楽団によるショスタコーヴィチは、第6番&第9番、第10番に続く第3弾となる。前の2枚はどちらかといえば正統派の演奏だったが、今回の第1番は異形だ。なにしろ遅い「…」この曲の全ディスクの中でおそらく最長となる……（増田）
	ホルスト：組曲《惑星》、ライティオ：木星の月光 ニコラス・コロン指揮フィンランド放送 so, 他 [Ondine (D) ODE1491 (海外盤)] ♪ ホルストの《惑星》は非常に興味深い演奏と言えるだろう。低声部はやや軽めに抑えてサクサクと音楽を推進させ、パリッとしたアーティキュレーションによって色彩の明快な再現を一貫させているのがまず目立つ。その上で、英国系のオーケストラが聴かせるような……（相場） ♪ 《惑星》は「…」FRSO [編注：フィンランド放送響]の透明感のあるサウンドを活かしながら、木管セクションがヒヤラヒヤラと浮き上がってくるなど、指揮者とオーケストラの相乗効果を実感する「…」《木星の月光》が併録されている点にも着目すべきである……（満津岡）
	ラフマニノフ：合唱交響曲《鐘》、交響的舞曲 カリーナ・カネラキス指揮オランダ放送 po, 他 [PentaTone (D) PTC5187523 (海外盤)] ♪ きわめて色彩豊かなアルバム。カネラキスは首席指揮者を務めるオランダ放送フィルから、輝きに満ちた素晴らしい音色を引き出している。《鐘》は、テキストの意味を超え、ひとつの音画として楽しむことができる演奏。第1楽章では……（石原勇） ♪ 格調高くラフマニノフの音楽を作り上げている。ヴァイオリン奏者としてのオーケストラでの豊富な演奏経験が、恐らくはカネラキスの血肉となっているに違いない「…」音楽の余白は、彼女の蓄えてきた経歴の証左でもあるのではないだろうか……（國土）
	ヤニェヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第5番、モーツァルト：交響曲第29番 シュシャース・シラノシアン (vn) マルティナ・バストウシカ指揮 [oh!] オルケストラ [NIFC (D) SNIFCCD164] ♪ フィリックス・ヤニェヴィチの協奏曲シリーズ第3弾「…」ヴァイオリン協奏曲は全部で5曲あるが、この第5番は唯一の短調「…」シラノシアンのアプローチはまさにその新しさを表現しきっており「…」なぜこれほどの作品が忘れられていたのかと思わせる……（西村） ♪ シラノシアンは相変わらず巧い。装飾や変奏なども歴史的様式を研究したと思わせる「…」ヤニェヴィチをまだ試していない向きには、まず本盤から聴いて欲しい。モーツァルトの方は、競合盤の多い作品だけに、とにかくユニークさを極めんとした演奏……（安田）
	シマノフスキ：交響曲第4番《協奏交響曲》、マズルカ集より シモン・ネーリング (p) マリン・オールソップ指揮ポーランド国立放送 so [ルビコン・クラシックス (D) SRCDD1215] ♪ 交響曲第4番は、タイトルの《協奏交響曲》の通り、実質はピアノ協奏曲「…」ネーリングによる技巧かつ華やかな表現は「…」その一音一音の透明感ある美しさが、曲の魅力を引き立たせる。一方、オールソップは「…」色彩性、運動性を鮮やかに引き出す……（鈴木） ♪ シマノフスキが、A.ルービンシュタインに献呈した作品を中心にした演目が組まれている「…」交響曲第4番《協奏交響曲》は、ピアノ独奏にヴィルトゥオーゾ的な手腕が求められる一方で、作曲者が独自の民族様式を確立した第3期に作曲された作品であるため……（満津岡）
	N響大河ドラマコンサート 2026 沖澤のどか指揮 NHKso, 他 [ソニー・ミュージックレーベルズ (D) SICL30075] ♪ 2026年の目玉は、スコアが失われている武満徹《源義経》(1966)の坂田晃一の再現版による蘇演がなされたこと、そして2024年に亡くなった間宮芳生の書斎から見つけた《竜馬がゆく》(1968)の再演がされたこと「…」驚かされたのは……（小室） ♪ 最多作曲回数(5回)を誇る池辺晋一郎の作品が4曲採り上げられている「…」とりわけ《独眼竜政宗》(1987)の音楽の完成度は、すべての池辺作品において最高の出来映え「…」全体的にやや軽いのだが、血湧き肉躍るドラマの世界を十分に彷彿とさせる……（広瀬）



アメリカン・ドリーム？

バーバラ・ハンニガン (S) 指揮 イェテボリ so [アルファ (D) NYCX10596]

♪ブックレットにあるバーバラ・ハンニガン自身の解説が興味深い。カナダ人である彼女がアメリカ合衆国にたいして抱く複雑な感情を率直に打ち明け、現在の合衆国の政治状況に異議を申し立てると共に、このアルバムがテーマが…… (相場)

♪ハンニガンが現在のアメリカに対して持つ […] 複雑な感情に、やはりアメリカと関係の深い日本人でも共感できる人は多いだろう。それはともかく、これは良いアルバムだ。選曲は興味深く、演奏も質が高い。最初はガーシュウインの《ボーギーとベス》で始まる…… (増田)

●室内楽／器楽曲



J.S. バッハ／無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ (全曲)

島田真千子 (vn) [ソニー・レコーズ (D) SICX10028～9 (2枚組)] SACD ハイブリッド

♪使用楽器 […] はモダン仕様ながら、バロック弓と銀巻ガット弦。矢澤孝樹氏のライナーノートによれば、バロック奏法に近づけたというよりは、この組み合わせが自分にとって最も弾きやすく、理想の音や響きが作れると考えての選択とのこと。とはいえ…… (那須田)

♪このヴァイオリンの「聖典」に真正面から立ち向かい、外連味のない解釈と、技術的な鍛錬・探究によって細部を丹念に積み上げた構築的な演奏であり、ひたすらバッハの精神に肉迫しようとする姿勢が貫かれている […] 彼女が何より尊重しているのは…… (芳岡)



ベートーヴェン／後期弦楽四重奏曲集

ディオティマ弦楽四重奏団 [PentaTone (D) PTC5187604 (3枚組, 海外盤)]

♪快いアダルトな安定感を備えた良い演奏である。それはとりもなおさず、自分たちがこれまで弾き込んで築きあげてきたスタイルが、しっかりと確立しているからだろう […] 象徴的なのは第15番第3楽章の、あの名高いリディア調の部分である…… (石原立)

♪ディオティマ弦楽四重奏団は前衛を視るときに、最先端だけを捉えるのではなく、伝統と歴史をも同時に捉えている。だからこそ […] ベートーヴェンの、それともとても実験的でありつつ美を究極に探訪した後期の弦楽四重奏曲をレコーディングした…… (布施)



フォーレ／ヴァイオリン・ソナタ集、歌曲の編曲集

カーソン・レオン (vn) ジョナタン・フルネル (p) [Alpha (D) ALPHA1177 (海外盤)]

♪フォーレの2つのヴァイオリン・ソナタのあいだに7曲の小品をはさむ構成をとり、出だしの第1番は明るく闊達。ういういしい純な情感で青春を謳歌する。こんなからっとしたフォーレは初めてか。一方、剃刀のように切れこみの鋭いボウイングは…… (喜多尾)

♪まさに実力派同士の今回のフォーレのCD。曲目も2曲のヴァイオリン・ソナタを軸に多くの小品も含めた魅力的な内容である […] 第1番はフォーレ30代の情熱的な曲で、同じ年頃のこの2人のアンサンブルも熱のこもったエネルギーに満ちた演奏を聴かせている…… (草野)



ハイドン／弦楽四重奏曲集

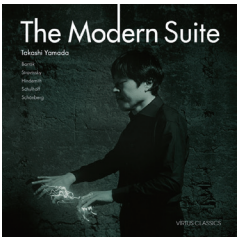
カルテット・アルモニコ [MClassics (D) MYCL00076]

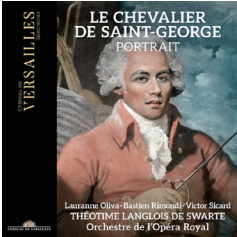
♪今でもハイドンを「弦楽四重奏曲の父」とか「交響曲の父」とか呼んでいるのだろうか。というのもこの盤、そうした形容(交響曲はともかく)を再認識するに相応しい […] 作品の姿をあやまらず伝えようという謙虚な姿勢が明白で…… (石原立)

♪この団体の演奏は奇を衒わずに極めて正統的であるが、しかしその演奏は生身の人間の持つ生き生きとした新鮮で血の通った音楽を伝えている。このハイドンの3曲は、初期・中期・後期からの各1曲をカップリングした内容で、弦楽四重奏曲のスタイルの言わば原点…… (草野)

【現在の新譜月評執筆陣】 ※敬称略、五十音順

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畑恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子
 国土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也
 西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂丘彦 船木篤也 増田良介 満津岡信育 松平敬 水谷彰良
 美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鷲野彰子

	ピアノ・トランスクリプションの世界 福岡洸太郎 (p) [ナクソス (D) NYCC27316] ♪ 《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》はジンガーの編曲にさらに福岡が手を加えてオーケストラの演奏を彷彿とさせる […] 整然としているが、終楽章などは生き生きと弾んで楽しい。コードの瞬時の仕掛けが面白いが、これはもう聴いていただくしかない…… (那須田) ♪ 《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》からワーグナー、さらにはシャンソンまで、硬軟織り交ぜた選曲がなされているが、いずれもピアノで表現することの喜びにあふれている。彼にとってトランスクリプションとは…… (新野見)
	モダン・スイート 山田剛史 (p) [Virtus (D) VTS036] ♪ 「スイート」と言っても甘いわけではない。ここでは「スイート・ルーム」のスイート。音楽用語では「組曲」だ。それも 1920 年代という音楽史上稀に見る移行期のそれで、バルトークからシェーンベルクまで、このバロック期の形式に作曲家たちが託した五人五様…… (長木) ♪ 戦間期の芸術はやはりおもしろい […] 時代の空気を鋭敏に嗅ぎ取る芸術家たちは、形式と情念とがギリギリの均衡を保っているような、危うさを秘めた作品たちが生み出した。山田剛史の演奏はその構築力で、そのような作品に宿る精神のありようを的確に伝える…… (新野見)
	ヴィルトウオーズの追憶 黒岩航紀 (p) [アールアンフィニ (D) MECO1091] SACD ハイブリッド ♪ タイトル通り、黒岩の技術の高さ、そして「ヴィルトウオーズ」という概念と限られた存在しか演奏できない楽曲への敬愛を感じる […] 黒岩の技術の高さ、そして選ばれた楽曲からして、はじめはどうしても「技巧」の面に耳が向いてしまうかもしれないのだが…… (長井) ♪ スクリャーピン […] の人気曲《幻想曲》口短調は、即興的な趣があり、悩ましくやるせない情念がよく出ていて情熱的なクライマックスが圧巻 […] ホロヴィッツの《ビゼー「カルメン」の主題による変奏曲》はいったい何人で演奏しているのかと思うほどの名人芸で…… (那須田)
	クラヴサン XX ～ 20 世紀のクラヴサン作品集 ジュスタン・テイラー (cemb), 他 [アルファ (D) NYCX10595] ♪ ファリャ、ブーランク、フランセなど比較の有名なモダン・チェンバロ作品を中核に置く […] 注目すべきはテイラーが、1970 年代にアンソニー・サイディが製作したモダン／ヒストリカルのハイブリッド楽器を用いていること…… (矢澤) ♪ 面白さと魅力がギュッと詰まったディスク […] チェンバロの音色も「機械的」な音からハーブのような音まで様々な表情をもち、テイラーはそれらの多彩な音色を戦略的に使っていて実に心憎い。このディスク (特にマルチヌーの作品) を聴きながら…… (鷲野)
	ショパン／練習曲集, 他 シモン・ネーリング (p) [NIFC (D) SNIFCCD224] ♪ 初期の変奏曲から練習曲、スケルツォや小品など、ショパンの様々な時期の作品を集め、作曲者の生涯、また作風の変遷をたどるような構成で、ネーリングのショパンに対する敬愛や解釈といったものが伝わる内容 […] 彼の高い技術は練習曲を聴けばすぐにわかる…… (長井) ♪ ショパンの 2 つの《練習曲集》から 4 曲と《スケルツォ第 4 番》に、初期の珍しい作品を混ぜることで、作曲家の進化の軌跡を示す選曲 […] ネーリングのピアノイズムは音色や響きに対する繊細な感受性とエレガンスとリリシズムが魅力だが…… (那須田)
	ピアノ・リサイタル 2025 イリーナ・メジューエワ (p) [ビジン・クラシカル (D) BJN1043] ♪ 自分も客席の一人であるかのように高揚し、しまいには「ああ、この場に居合わせたかった」という悔しさを覚えてくる。そう思えることが最良のライブ盤の証であり、それを聴く醍醐味と言えるだろう […] まさにそうした感覚を呼び起こす記録である…… (飯田) ♪ 彼女のリサイタルで印象的なのは、常に楽譜をピアノにおいて演奏を行なっている点 […] 楽譜を通して楽曲、果ては作曲家とコンタクトを取り、常に作品の真実に迫ろうとする […] 本盤はまさにそんなメジューエワの演奏の魅力が詰まったライブ録音である…… (長井)

	ワーグナー：楽劇《ニーベルングの指環》（全曲） ファビオ・ルイージ指揮ダラス so, 同 cho, 他 [Delos (D) DE3624 (13 枚組, 海外盤)] ♪アメリカでの《ニーベルングの指環》としては、DG にレヴァインとメトロポリタン歌劇場が行なったものが思い出されるが、その […] 頃の音楽状況と現代との変化が、この新しい《指環》録音では如実に聴き取れる […] まずはオーケストラの演奏技術の進歩……（國土） ♪今どき《指環》全曲の新録音の CD セットが出るとは驚いたが、あえて出すだけの価値のある素晴らしい演奏 […] 演奏会形式上演のライブ録音である。「音に聴く指環」として、管弦楽を細部まで聴きとり、迫力たっぷりに楽しむには舞台上演よりもこの方がいい……（山崎）
	J.S. バッハ：ヨハネ受難曲 BWV.245 ジョルディ・サバル指揮ル・コンセール・デ・ナシオン, 他 [Alia Vox (D) AVSA9967 (2 枚組, 海外盤)] SACD ハイブリッド ♪ジャケットにあしらわれているのは、スペイン・バロック期を代表する画家の 1 人ムリーリョの描いたイエスの磔刑図。だが演奏自体は […] 非現実的で劇的な色彩と光を用いて神秘的瞬間を表現しようとしたグレコの世界 […] そうした特徴は、冒頭の合唱からして……（小宮） ♪広大な音楽の時空を駆け抜けてきたサバルの旅は、厳選された古今の傑作にその成果を注ぎ込むという、かつてのアーノンクールのような地点に到達している […] 近年はかつての熱量の高い激しさからもう少し穏やかな、懐の深い表現にシフトしていたが……（矢澤）
	シュヴァリエ・ド・サン＝ジョルジュの肖像 テオティム・ラングロワ・ド・スヴァルト (vn・指揮) ヴェルサイユ王室歌劇場 o, 他 [Chateau de Versailles Spectacles (D) CVS130 (2 枚組, 海外盤)] ♪1999 年に評伝が出てから […] サン＝ジョルジュ (1745～99) の再評価の機運は高まった […] 黒人の先祖を持つ芸術家であり、革命前のフランス宮廷で差別に耐えつつ活動した彼の功績が、この 2 枚組 CD で日本のファン層にも広く知られるよう願う……（岸） ♪これまでもサン＝ジョルジュの録音は少なからずあった。しかしながらそれらの演奏はサン＝ジョルジュの音楽を「18 世紀後半＝ドイツ語圏音楽史の時代」というイデオロギーで封じ込めていたきらいがある […] 本当のところは当時のパリは……（谷戸）

	ヴィヴァルディ：協奏曲集《四季》 榎本大進 (vn) ベルリン・バロック・ゾリステン [ベルリン・フィル・レコーディングス (D) BPHR260541] SACD ハイブリッド ♪激しい《四季》に驚きを禁じ得ない […] このオーケストラによる初演奏（1928 年）から 100 年を迎える時期に録音された […] 悍猛な動物が獲物に襲いかかるような、またその直前の息を潜めているときような、張りつめた持続と、生命力が横溢し、強靱なリズム……（美山） ♪ベルリン・フィルハーモニー・レコーディングスから […] ディスクが登場するのは軽く驚く […] ドイツの J.S. バッハではなくイタリアはヴィヴァルディの《四季》 […] そして独奏は榎本大進 […] 自主レーベルにおいても楽団の多様性を発信している……（矢澤）
	ヴィヴァルディ／ファゴット協奏曲集 Vol.4 福井美穂 (fg) アンサンブル F [アルス・プロダクション (D) ARS38379S] SACD ハイブリッド ♪福井美穂が 2014 年から進めているヴィヴァルディの協奏曲シリーズ第 4 弾 […] 福井の独奏は、バロック楽器特有の不揃いさを残しながらも、安定したテクニックが素晴らしい。元来短調作品での陰影に富んだ表現が出色の福井だが、今回のアルバムでは……（西村） ♪楽器としてのファゴットの魅力は尽きない […] ヴィヴァルディは、こうした楽器の魅力を次々に繰り出すコンチェルトを多数残した […] 福井美穂とアンサンブル F による卓抜な演奏については、リリースの度に讃嘆の言葉を贈り続けてきたが、今回も……（美山）

※今回は「現代曲／ポスト・クラシカル」の特選はありません

【レコード芸術 ONLINE】

2026 年 7 月 22 日～8 月 21 日更新の記事一覧

※有料会員限定コンテンツを含みます

【お知らせ】

- ・「クラシック・データ資料館」復旧のご報告
- ・フリーマガジン第 12 号配布開始！

【ニュース】

- ・ピアニスト、中村紘子 ソニー・ミュージック時代の音源が配信開始！
- ・【2026 年 8 月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報
- ・クラシック音楽 海外盤リリース情報（2026 年 8 月）

【2026 年 7 月新譜月評】

- ・音楽史、現代曲／ポスト・クラシカル、その他

【2026 年 8 月新譜月評】

- ・オーケストラ曲、室内楽／器楽曲、鍵盤曲、オペラ／声楽曲

【「ダブル評」総まとめ】

- ・これがクラシック音楽の注目盤だ！ 2026 年 7 月 新譜月評「ダブル評」批評文総まとめ

【最新盤レビュー】

- ・クラシック リイシュー & BOX 注目盤（7 月） | 編集部
- ・ウィーン・フィル「サマーナイト・コンサート 2026」待望のライブ盤に聴くヨーロッパの夏 | 東端哲也
- ・名門バイエルン放送響、小澤征爾（1990 年）プロムシュテット（2009 年）との“化学反応” | 鈴木淳史

【NHK 交響楽団創立 100 年特別企画】

- ・N 響に登場した巨匠指揮者列伝 第 2 回 オットマール・スウィトナー | 満津岡信育
- ・N 響とベートーヴェン：録音でたどる名演の歴史 | 増田良介

【「指環」初演 150 周年】

- ・バイロイト音楽祭 2026 の注目指揮者たち | 編集部
- ・もう一つのワーグナー録音史：巨匠指揮者でたどる「管弦楽曲集」の銘盤たち | 増田良介
- ・3 人の“ワーグナーの達人”への 5 つの質問状 序夜～最終日 | 新野見卓也、吉田真、光野正幸
- ・登場人物別ワーグナーの名盤・名唱ディスコロジー | 編集部

【武満徹の音楽世界】

- ・武満徹を読み解く 4 つのキーワードとおすすめディスク | 白石美雪

【ファリャとロドリゴ】

- ・ファリャとロドリゴを聴く 12 の最新ディスク | 編集部

【特別企画】

- ・ホラー／スリラー映画に描かれたクラシック音楽家たち 劇中音楽と関連ディスク 10 選 | 編集部
- ・山之内正が聴く、最新 高音質リマスター盤 6 タイトル | 編集部
- ・2026 年秋（9 月～11 月）の来日オーケストラが熱い！ 編集部の注目団体＆関連ディスクガイド | 編集部

【連載】

- ・音符の向こう側 第 21 回 オペラ《椿姫》ゼミナール開講！ | 城所孝吉
- ・クラシックレーベルの 100 年 第 2 回 LP によるレーベル拡大期（1950～60 年代）その 2 | 山崎浩太郎
- ・プレルーディウム 第 21 回 バイロイトはどこへ行く？ | 船木篤也
- ・名演奏家再批評 File07 とある 2 つの「ロシア・ピアノズム」③～④ | 山本明尚
- ・名演奏家再批評 File08 名盤の外側でたどるシャルル・ミュンシュ①～③ | 平野貴俊

【レコ芸アーカイブ】

- ・名演奏のディスコロジー 第 8 回（1976 年 8 月号）ストラヴィンスキー《春の祭典》 | 柴田南雄
- ・名曲名盤 300/500 総集篇 Vol.7 シューベルト：交響曲第 8 番《未完成》& 交響曲第 9 番《ザ・グレート》 | 編集部

【特設ページ】

- ・ソーニャ・ヨンチェヴァ & ドミンゴ・インドヤン、初の夫婦共演盤！

『レコード芸術 ONLINE』 フリーマガジン 制作終了のお知らせ

読者の皆様、ならびにご協力いただきました関係者の皆様へ

2025 年 9 月の第 1 号以来、多くの皆様にご愛読いただいていた当冊子ですが、諸般の事情により、今号をもちまして制作を終了とさせていただくこととなりました。

突然のご案内となりましたことをお詫び申し上げるとともに、これまでご愛読いただきました多くの皆様に、編集部一同、心より御礼申し上げます。

また、フリーマガジンの制作は終了しますが、Web サイト『レコード芸術 ONLINE』は今後も変わらず運営してまいります。引き続きのご愛顧を賜れますと幸いです。

2026 年 8 月 31 日

株式会社音楽之友社
『レコード芸術 ONLINE』編集部

【レコード芸術 ONLINE 公式 SNS のご案内】

記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになった感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。

